

## 平成 28 年度研修員 畑山真穂さんの声

### プロフィール

London School of Economics and Political Sciences (LSE)にて、地域経済開発修士号取得。その後、約 2 年半、開発コンサルタント企業にて、モザンビーク農業開発や能力強化に係る ODA 事業や調査業務に従事。本事業を通じ、UNDP リベリア事務所にて中小零細企業支援プロジェクトに従事。研修終了後は、イギリス研究機関 Institute of Development Studies にて民間セクター開発分野の研究員として勤務予定。

### 1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

本事業への応募理由は、主に 3 点あります。1 つ目は、民間セクター開発に関する実務経験と専門性をさらに積むためです。大学学部では、途上国の飢餓問題の解決に向け農学を専攻しました。在学中、アフリカを中心とする途上国を訪問した結果、他国への過度な依存と模倣に対する強い違和感を抱き、現地の産業や民間セクター開発を通じた「地域の個性を活かした、現地の人の手による経済的自立の促進」に携わることを決意しました。これを起点に、大学院では、西アフリカの中小零細企業開発とビジネス環境に関する研究を行い、その後は、開発コンサルタント企業にて、ODA 事業に従事しました。次のステップとして、本事業の海外実務研修にて、民間セクター開発、特に中小零細企業支援に特化した実務経験をさらに積みたいと考えました。

2 つ目は、国連機関の開発アプローチを学ぶためです。それまでの経験では、NGO や日本の ODA 事業の開発アプローチを学びました。より包括的な視野と知見を得るために、国連機関のアプローチを学び、今後、どのような組織やアプローチで、民間セクター開発に携わるかを検討したいと考えました。

3 つ目は、平和構築に関する知識を身につけるためです。私は、紛争・脆弱地域に焦点を当てた民間セクター開発に携わりたいと考えており、本事業で身につく平和構築の知識は、対象地域における活動に役立つと考えました。

### 2. 国内研修に参加した感想は？

最も役立ったことは、様々な国際機関で豊富な経験を積んだ講師から、国際機関の事業管理や実施方法、各国連機関の特色だけでなく、国連で働く上で必要となるスキルや心構えを学ばせて頂いたことです。特に、国際機関でのキャリア開発に関する情報は、大変有益でした。面接や履歴書に関するアドバイスは、実際に活用しており、キャリア開発の大きな一助となっています。

また、素敵な個性を持つ研修員との出会いも財産です。海外実務研修中も、情報交換を行い、キャリア上の相談に乗ってもらう事もあります。人として、平和構築・開発分野の先輩として、多くの学びを与えてくれる同期に感謝しています。

### 3. 海外実務研修での活動について教えてください。

私は、リベリアの4州において、起業家及び中小零細企業向けビジネス支援サービスの企画と実施に従事しました。私の主な役割は、(1)パートナーであるリベリア経済産業省・中小企業庁の能力強化 (2)企業及びビジネス環境に関するデータ収集・分析 (3)ビジネス支援サービスの企画・実施・モニタリング評価です。

特に、中小企業庁の職員に対するアドバイザリー及び技術支援に主力を注ぎました。例えば、中小零細企業支援施策事業（ビジネス研修、小規模融資、バリューチェーン構築や起業家支援等）に係る企画・実施に関して、技術的な助言を提供しました。事業レベルの支援だけでなく、職員への研修、企業に関する情報を集約したデータベースの構築、業務ガイドラインの作成、中小零細企業支援策のモニタリングシステムの導入等、組織改善に係る活動も行いました。



パートナーとなるマイクロファイナンス  
機関との協議



支援する起業家へのインタビュー

### 4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

目標としていた専門性・実務経験・コンピテンシーを、総合的に深めることができました。私は、産業省の中で勤務し、中小企業庁の政府職員と毎日業務と一緒にしました。このため、国連システムの運営・管理方法についての知識が身に付くだけでなく、ビジネス環境作りに重要な役割を担う公共セクター側の役割と課題、それに対する解決策が学べました。

また、省庁内での勤務を通じ、現地の起業家、中小零細企業、組合、商工会から大学機関、他の政府機関等、幅広い現地のステークホルダーと一緒に業務を行う機会を得たことで、民間セクター開発に係る現場の課題をより深く理解することができました。



省庁職員と



職員へのトレーニングの様子

一番印象に残っているのは、大臣や職員と日々議論を重ねたことです。時には、休日も一緒に仕事をし、多岐にわたる中小零細企業支援事業を企画・実施しました。リベリアでは、内戦後の人道支援段階を終え、経済的自立に向け、雇用創出や生計安定に寄与する民間セクターの役割は、ますます重要になっています。一方で、インフラ整備やビジネス規制を含め、ビジネス環境を大きく改善する必要があります。また、援助慣れした依存心の強い現地の人々の思考態度も、民間セクター開発を制約する一つの要因です。これらの課題に取り組もうと一生懸命議論する職員の姿勢が印象に残っています。大臣や職員から感謝の言葉をもらったことや提案した改善策が受け入れられた事は、1つ1つ心に残っています。同時に、省庁内の腐敗や構造的障壁も、多く目の当たりにしました。それに対する強い問題意識を得たことも、大きな実りであるかもしれません。今後、この課題に取り組んでいきたいです。



産業省とUNDPによる協議



起業家へのビジネス研修後の集合写真

## 5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

引き続き、民間セクター・産業開発、特に、起業・中小零細企業開発に取り組みます。特に、企業活動を妨げる非効率・不透明な政策や規制とビジネス環境改善に取り組むため、質の高いエビデンス作りとその発信に取り組みたいと考え、今後は、研究所において、民間セクター開発に係る研究業務に従事します。研究業務を通じ、この分野の専門性を更に高めた後、長期目標として、国際機関において、政府機関の能力強化や関連政策とビジネス環境整備に関するアドバイザリーサービスを提供したいと考えています。

## 6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

国連機関での勤務を目指す方には、国連を知る・経験する良いエントリーポイントになります。それ以外の方でも、人道支援や開発業界に携わりたい方には、経験・専門性の向上やネットワーク構築に役立ち、キャリア開発を後押しすると思います。研修後のキャリアに悩む方もいるとは思いますが、最終的なビジョンを明確し、自分で舵を切れば、最終目標への到達に繋がる貴重な経験になるのではないかでしょうか。